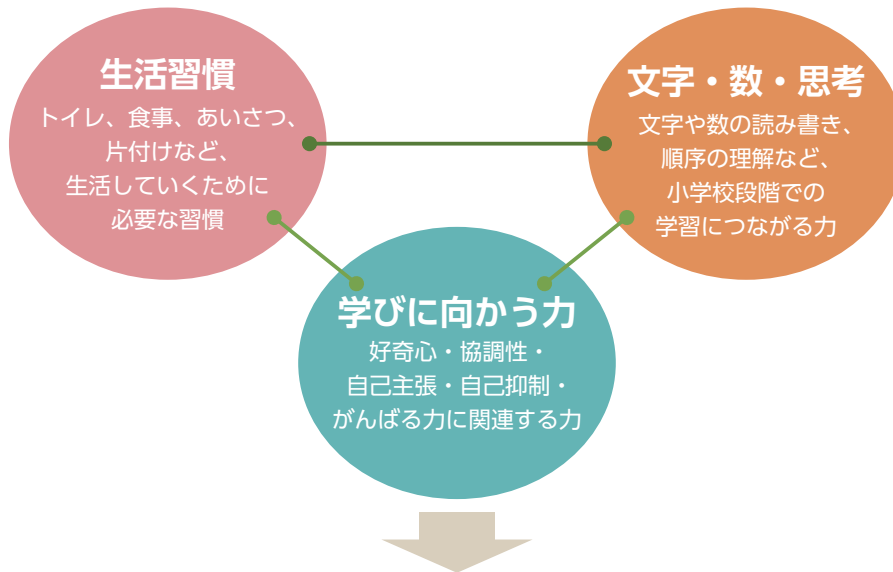


# 3 幼児期の「学びに向かう力」と母親のかかわり

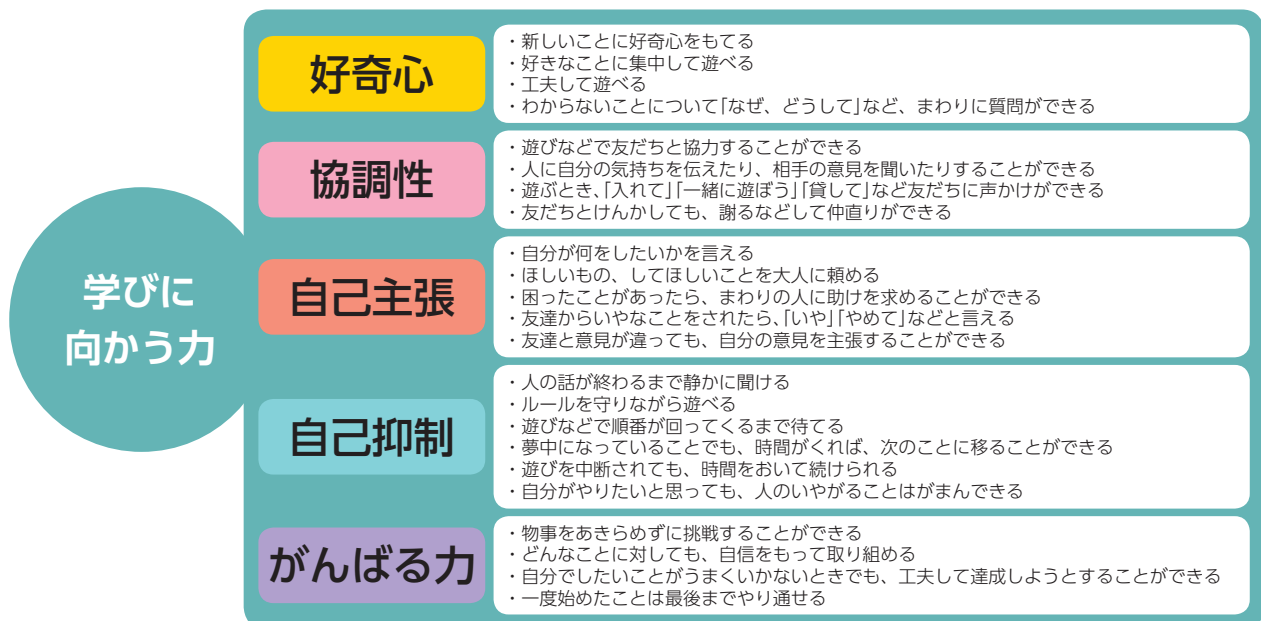
## 3-1 幼児期にはぐくみたい3つの軸と「学びに向かう力」とは

ベネッセ教育総合研究所では、幼児期から小学校の学習生活に移行し、適応するために必要とされる力、幼児期に育てたい生涯にわたって必要な力として、《生活習慣》《学びに向かう力》《文字・数・思考》の3つの軸を置いている。幼児期から小学生にかけての縦断研究により、子どもの学びは、幼児期から小1期にかけて、《生活習慣》が土台となり、《学びに向かう力》と《文字・数・思考》が影響し合い、成長していくことがわかった<sup>\*1</sup>。



本速報版では、《学びに向かう力》について取り上げる。

《学びに向かう力》は、多母集団同時分析による検証の結果、社会文化的な環境が異なる4か国で、共通の5領域、「好奇心」「協調性」「自己主張」「自己抑制」「がんばる力」で構成されることがわかった。

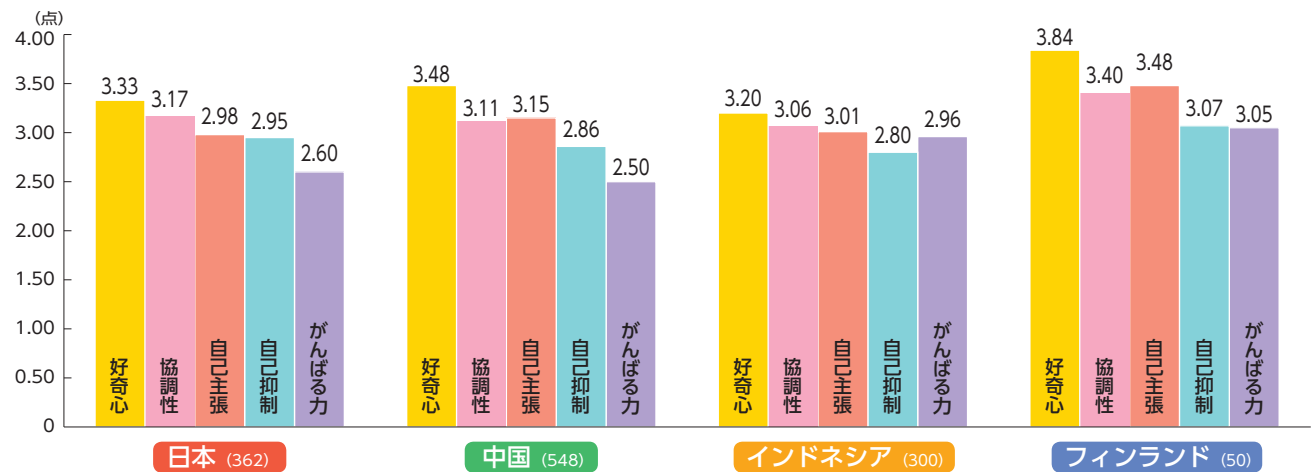


\*1 参照：ベネッセ教育総合研究所「幼児期から小学生の家庭教育調査」<http://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=3684>

## 3-2 学びに向かう力 各国の6歳児の状況

**Q** 現在、対象のお子様は以下のことについて、どれくらいあてはまりますか。  
(15ページに示した項目それぞれについてきいた。)

図3-2-1 《学びに向かう力》5領域の発達状況(6歳児)



※ 得点の出し方: 「好奇心」「協調性」「自己主張」「自己抑制」「がんばる力」の各項目において、「とてもあてはまる」を4点、「まああてはまる」を3点、「どちらともいえない」を2点、「あまりあてはまらない」を1点、「ぜんぜんあてはまらない」を0点として算出し、平均点を出した  
 ※ 6歳児の状況。( )内はサンプル数  
 ※ 分析にあたり、中国のデータについては、関連の設定に対して「無答不明」が生じたケースは全て除外し(リストワイズ削除)、2286件で分析している

《学びに向かう力》として定義した「好奇心」「協調性」「自己主張」「自己抑制」「がんばる力」は、それぞれについて4～6項目の設定を用意し、「とてもあてはまる」～「まったくあてはまらない」の5段階で母親に回答してもらった。各国とも、「好奇心」「協調性」「自己主張」の発達状況は、「自己抑制」「がんばる力」よりも、高めの傾向がみられる。

## 3-3 母親の養育態度の特徴

**Q** 日頃、対象のお子様と接している際、あなたは以下のことについて、どれくらいあてはまりますか。

表3-3-1 養育態度

	日本	中国	インドネシア	フィンランド	
寄り添い型	子どもがやりたいことを尊重し、支援している	81.2	95.1	98.9	98.9
	どんなことでも、まず子どもの気持ちを受け止めるようにしている	68.3	85.8	97.9	94.5
	子どもに対して否定的ではなく、前向きで積極的な態度をとるように心がけている	58.0	84.0	83.5	95.5
	しかるとき、子どもの言い分を聞くようにしている	57.7	83.3	90.6	70.6
	子どもが自分でやろうとしているとき、手を出さずに最後までやらせるようにしている	66.6	85.7	90.4	94.4
保護型	私が一緒にいてあげないと、子どもは自分のことができないのではないかと心配になる	34.3	22.6	58.5	27.8
	子どもに対して過保護である	31.6	17.0	31.5	16.6
	子どもがしようとしていることすべてにわたってコントロールしようとしてしまう	25.8	18.3	60.8	5.5
	子どものことを、年齢より幼く扱うことが多い	20.1	14.9	27.6	10.0
	子どもを私に頼らせようとしている	10.0	13.1	26.4	1.1

※ 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の％  
 ※ 分析にあたり、中国のデータについては、関連の設定に対して「無答不明」が生じたケースは全て除外し(リストワイズ削除)、2286件で分析している。

母親の日頃の子どもへの接し方をみると、いずれの国も、子どもの気持ちに寄り添い、尊重するような態度で子どもに接している傾向がみられ、過保護で統制する接し方よりも強くなっている。子どもの意思や感情を尊重する保護者のかかわりを「寄り添い型養育態度」と定義する。

インドネシアでは、「私が一緒にいてあげないと、子ども

は自分のことができないのではないかと心配になる」「子どもがしようとしていることすべてにわたってコントロールしようとしてしまう」という「保護型養育態度」の2項目について、6割前後が「あてはまる(とても+まあ)」と回答している。

### 3-4 学びに向かう力と母親のかかわり

母親の「寄り添い型養育態度」は、子どもの「好奇心」「がんばる力」の育ちと関連がみられる。

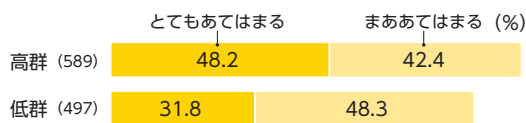


※ 4～6歳のデータ。二変量相関分析により、中程度(0.2～0.4)のプラスの相関がみられた  
※ 「協調性」「自己主張」「自己抑制」は、国により関連性がみられる

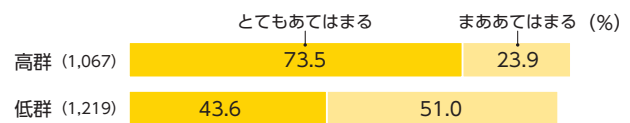
「学びに向かう力」として定義した5領域のうち、各国でもっとも得点の高い「好奇心」と、得点の低い「がんばる力」

を取り上げ、母親の「寄り添い型養育態度」との相関をみたところ、中程度の正の相関がみられた。

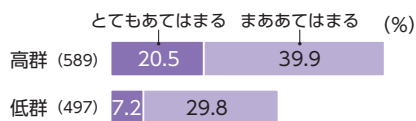
#### 日本 好奇心 新しいことに好奇心をもてる



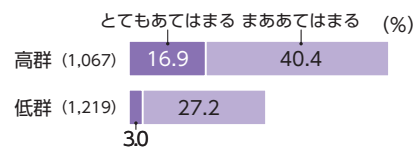
#### 中国 好奇心 新しいことに好奇心をもてる



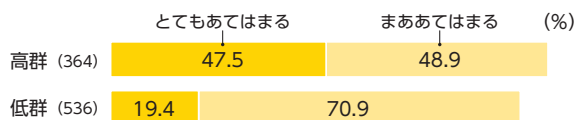
#### 日本 がんばる力 物事をあきらめずに、挑戦することができる



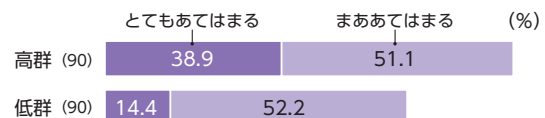
#### 中国 がんばる力 物事をあきらめずに、挑戦することができる



#### インドネシア 好奇心 新しいことに好奇心をもてる



#### フィンランド がんばる力 物事をあきらめずに、挑戦することができる



※ 「寄り添い型養育態度」について、各国の得点で高群と低群に分けた  
※ 分析にあたり、中国のデータについては、関連の設問に対して「無答不明」が生じたケースは全て除外し(リストワイズ削除)、2286件で分析している

母親の「寄り添い型養育態度」を得点の高い群と低い群にわけ、子どもが「新しいことに好奇心をもてる」(「好奇心」の設問項目)、「物事をあきらめずに、挑戦することができる」(「がんばる力」の設問項目)の関係を見る

と、母親が、寄り添い型のかかわりをしているほど、子どもは「新しいことに好奇心をもてる」(好奇心の項目)、「物事をあきらめずに、挑戦することができる」(がんばる力の項目)の比率が高いことがわかった。